

アンケート調査結果

第三章 重要項目：子育てと介護

子どもの数(図 3.1-2)

大規模アンケートでは、子供がいない場合に男女の差はほとんどないとされたが、水産学会では子どもの数のすべての分類で男女間の差が顕著である。男性は子供の有無に関わらず、平均在職場時間がほぼ一定であるが女性は子供がいない場合はむしろ男性より平均在職場時間が多く、こどもを持ってからは、男性と比べ在職場時間が明らかに少なくなっている。なお、水産学会の平均在職場時間はこの子どものいない女性を除き大規模アンケートよりすべての分類で少ない。

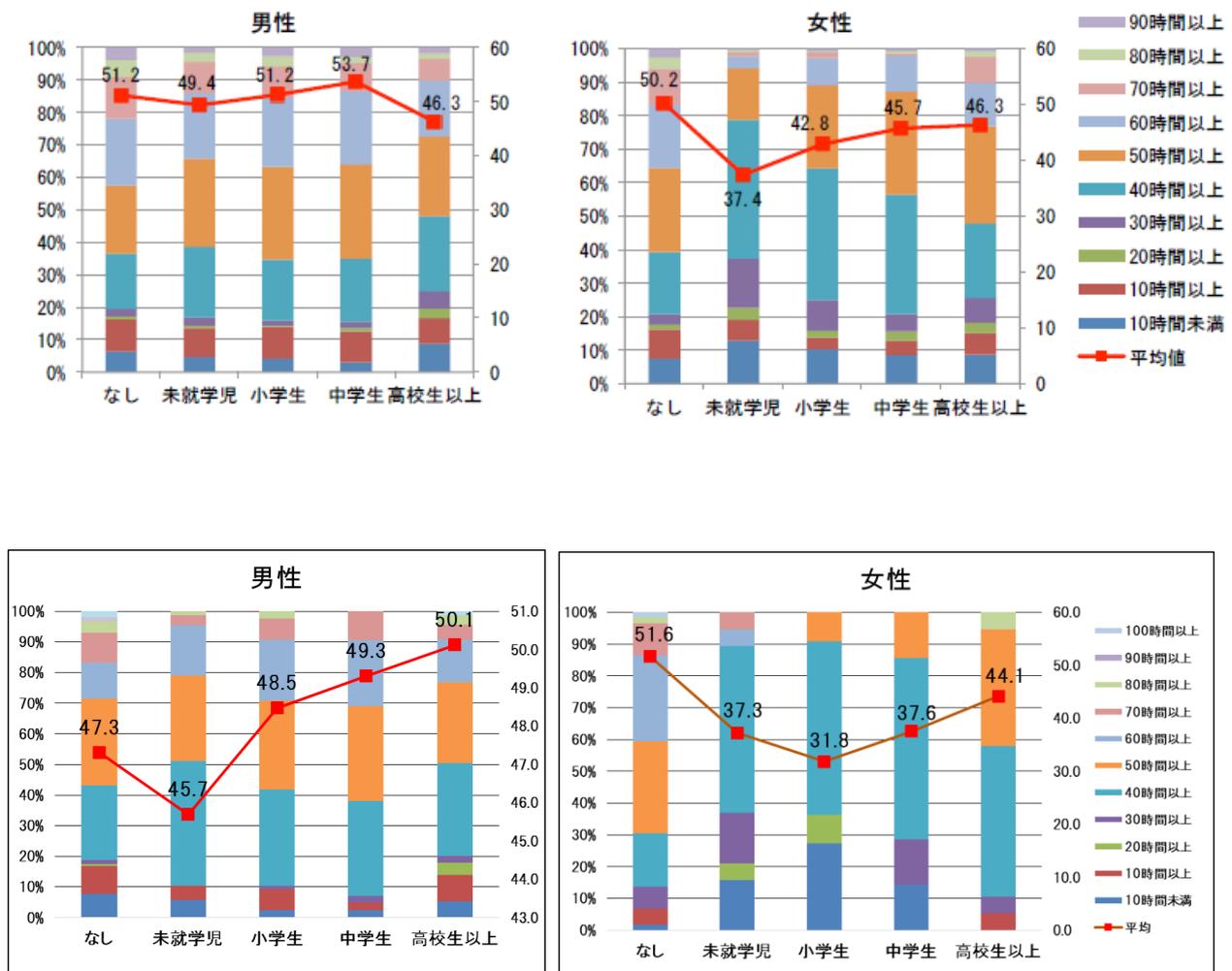


図 3.1 在職場時間(子どもの年代別)(上:全体/下:水産学会)

大規模アンケートでは男性は年収と子どもの数に相関がみられたのに対し、水産学会の今回のデータでは男女とも年収と子どもの数に相関は見られない。

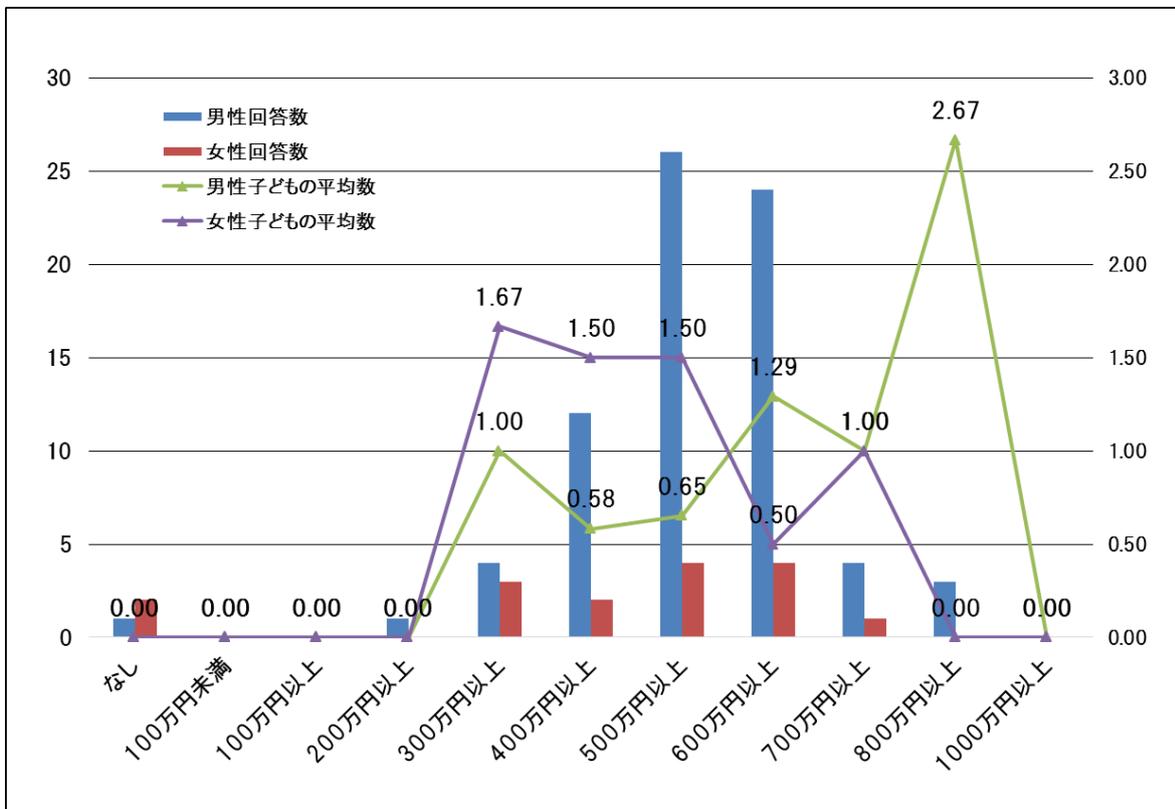
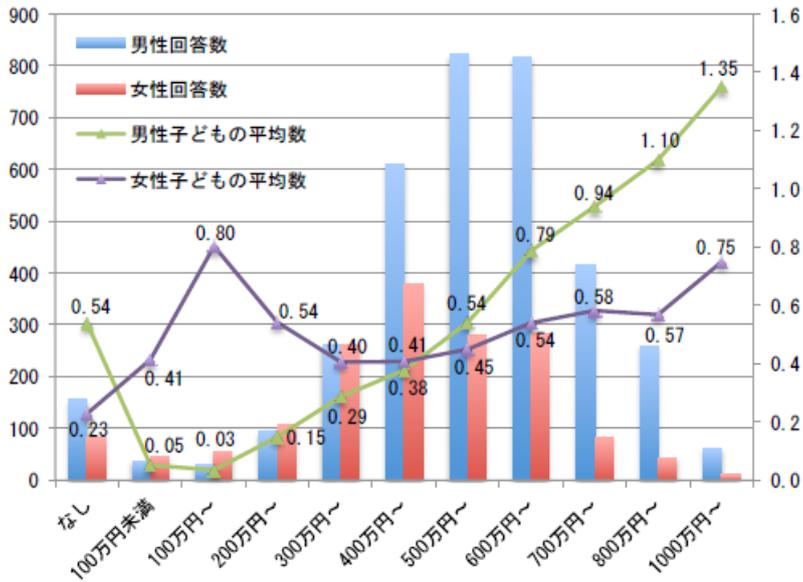


図 3.2 年収と子どもの数(30歳代後半)(上:全体/下:水産学会)

育児休業(図 3.3-6)

大規模アンケートでは、過去より現在に向かって育児休業取得者が増えている傾向が見えるが、水産学会の今回のデータでは回答数が少なく、傾向については論じることは難しい。

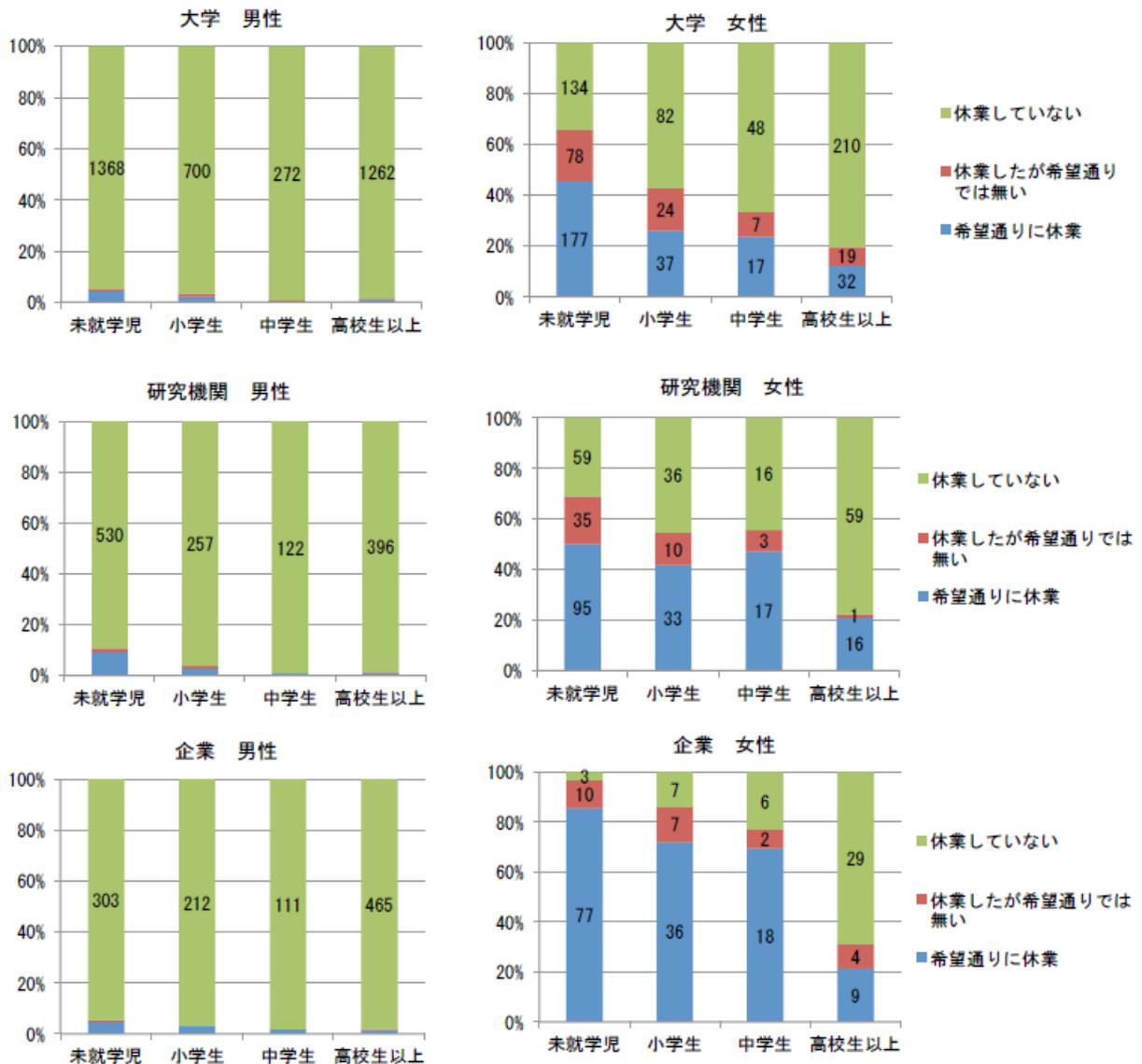


図 3.3 育児休業の取得状況(所属機関別)

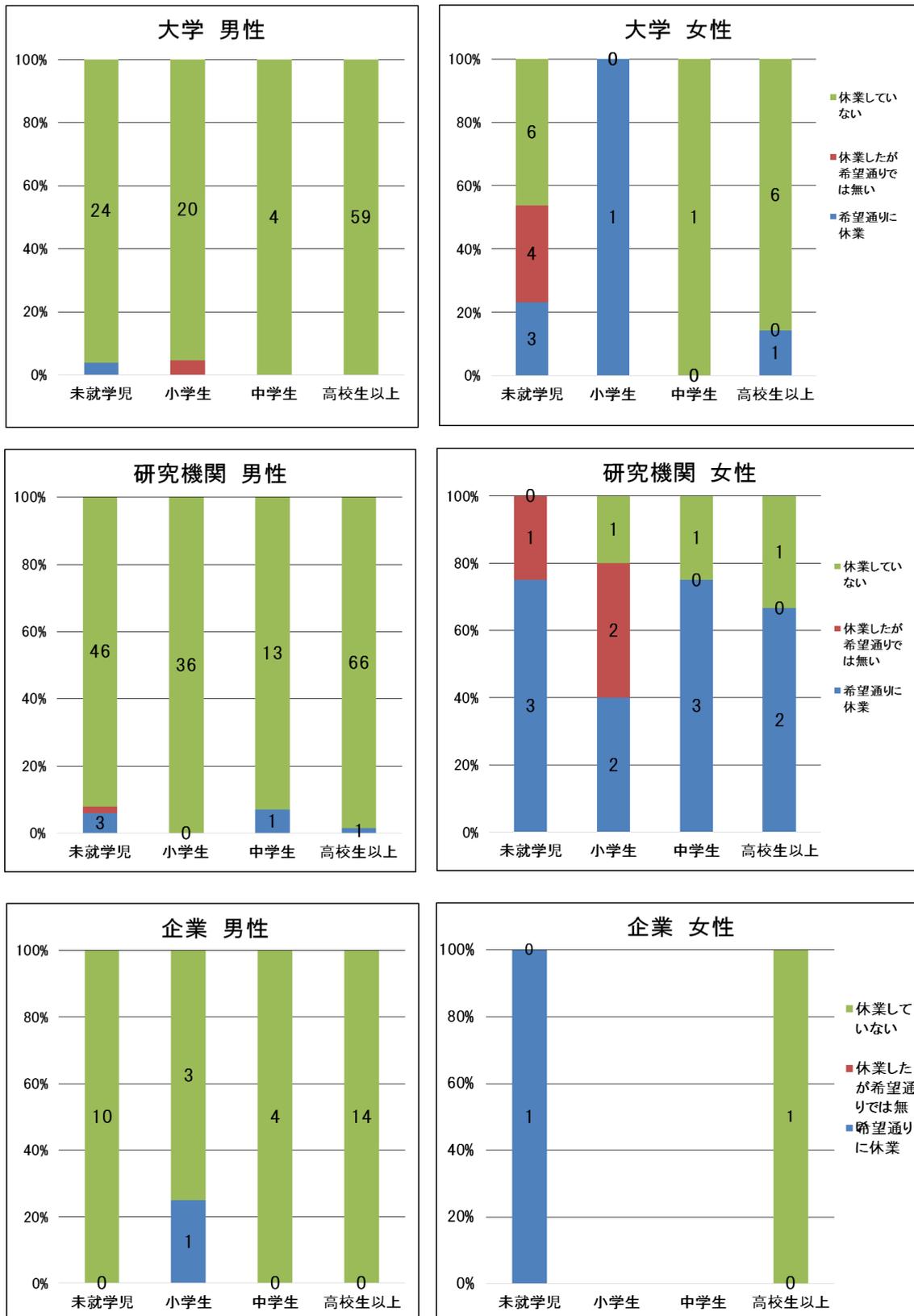


図 3.3 育児休業の取得状況(所属機関別:水産学会)

未就学児を持つ親が育児休業を取得しなかった理由については、回答人数が一定数ある大学の女性と、男性のデータでは大規模アンケートと同様の傾向が見られる。

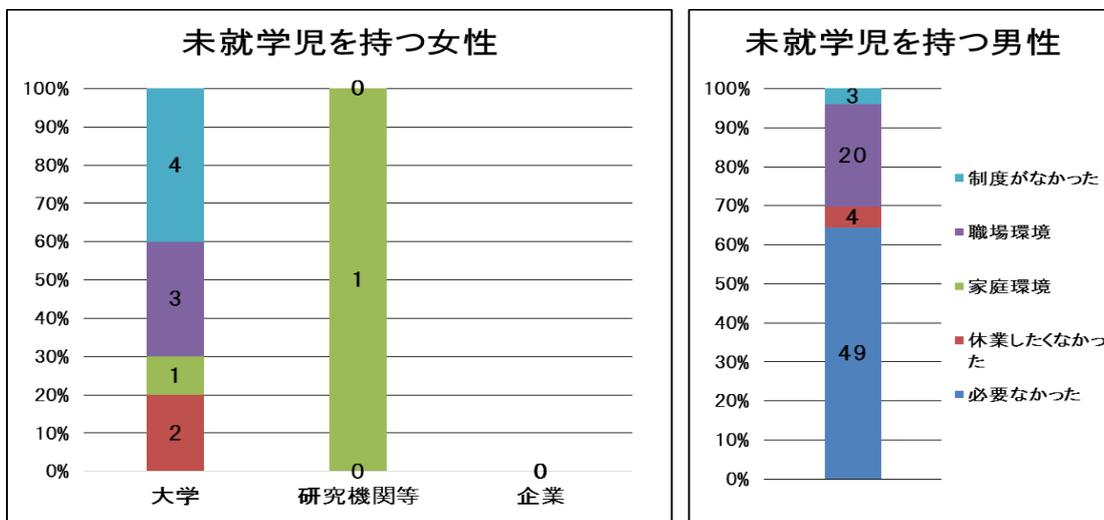
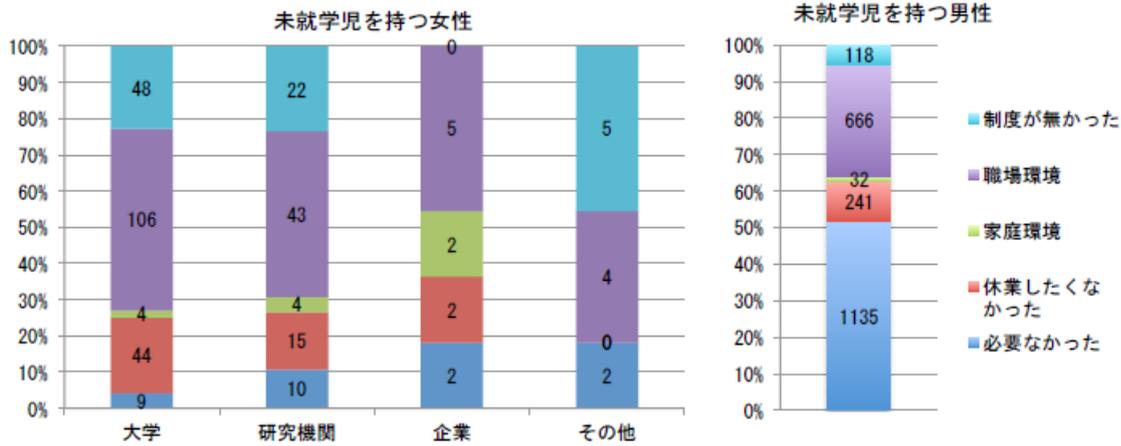


図 3.4 未就学児を持つ親が(希望通りに)育児休業を取得しなかった理由(上:全体/下:水産学会)

育児休業を取得しなかった理由雇用形態別に見ても、大規模アンケートと同じような傾向が見られるが、職別の分析では回答数が少ないため、傾向を分析することは難しい。

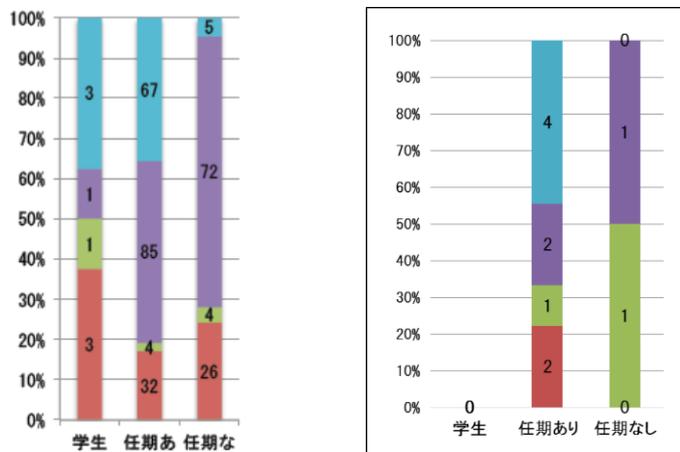


図 3.5 未就学児を持つ女性が(希望どおりに)育児休業を取得しなかった理由(雇用形態別)
(左:全体/右:水産学会)

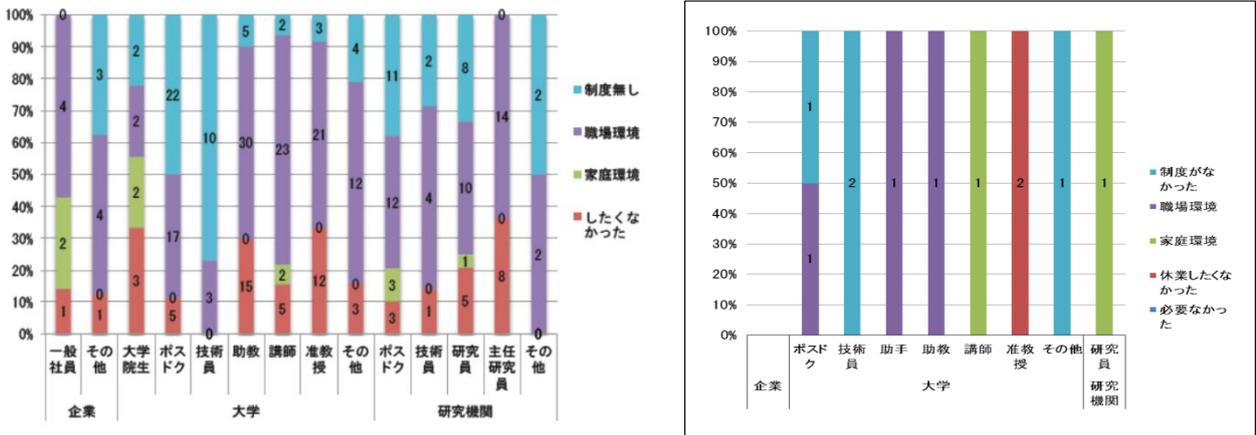


図 3.6 未就学児を持つ女性が(希望どおり)に育児休業しなかった理由(職別)
(左:全体/右:水産学会)

育児支援(図 3.7-9)

未就学児の日中の保育に関して、水産学会では男性は 8 割以上が配偶者に任せているが、女性は保育園や自分自身あるいはベビーシッターの利用という回答が多い。一方、女性で最年少の子どもが未就学児であるケースで配偶者に任せていると答えた回答者も目立った。

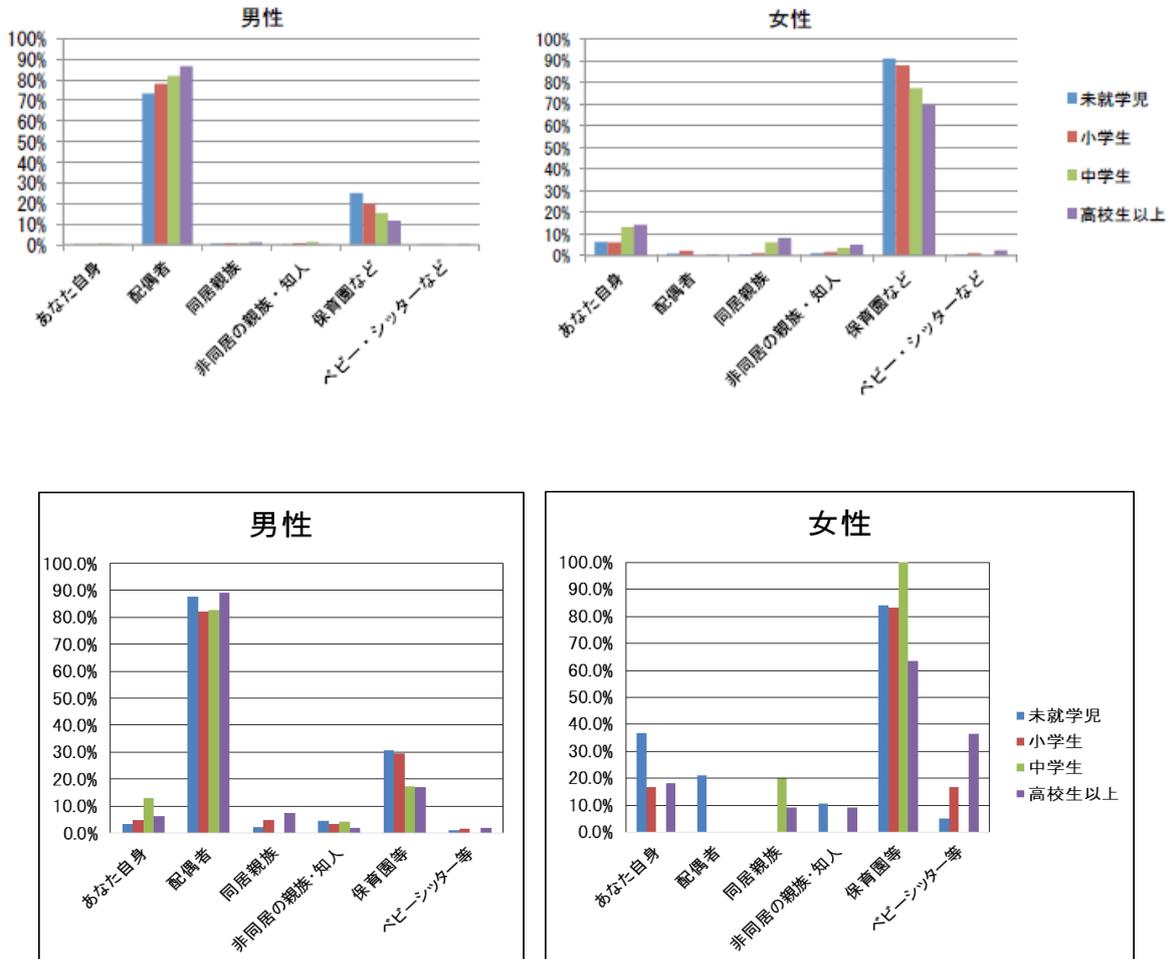


図 3.7 未就学児の日中の育児担当者-最年少の子どもの年代別(上:全体/下:水産学会)

小学生の放課後の保育担当者については、未就学児と同様、男性は子供の保育を配偶者に委ねている割合が高いが、大規模アンケートで8割を超えているのに対し、水産学会では最年少の子どもの年代が未就学児の場合が最低で44.3%、高校生以上の場合が最高で72.8%と低い数字となっている。女性の場合は学童保育の利用が最も多いが、さまざまな方法に頼っている状況が伺える。細かく見れば、最年少の子どもの年代によって保育担当者に違いが垣間見えるが明確な傾向であるとは断言しがたい。

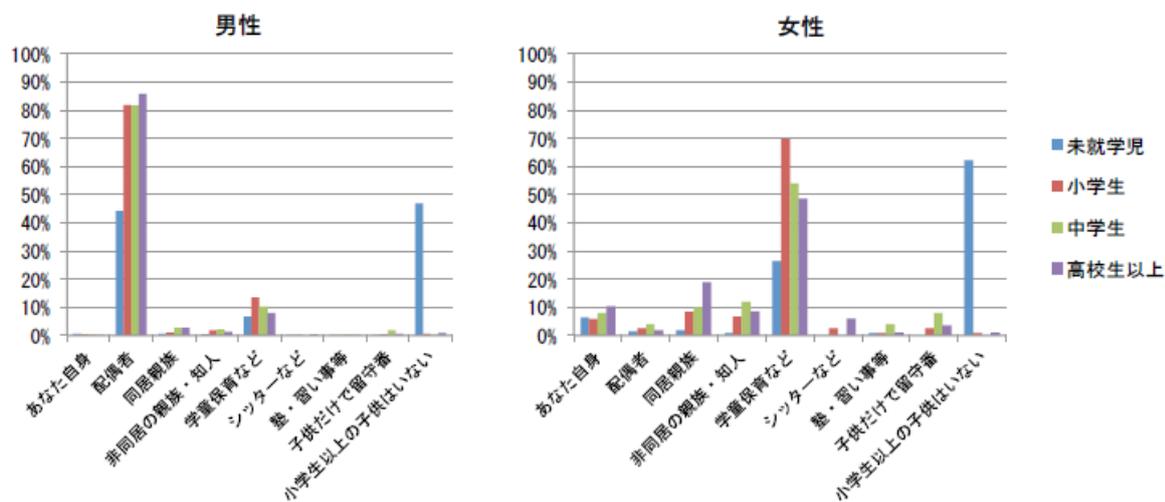


図 3.8 小学生の放課後の保育担当者—最年少の子どもの年代別(上:全体/下:水産学会)

学会参加時の保育担当の男女比較であるが、大規模アンケートで配偶者と答えた割合が男性で95%以上、女性で40%前後であるが、水産学会では男性が8割強でやや割合が低い。一方、女性は4割弱であり、次に多いのは非同居の親族・知人であり、大規模アンケートで次に多かった同居親族と答えた割合は少ない。

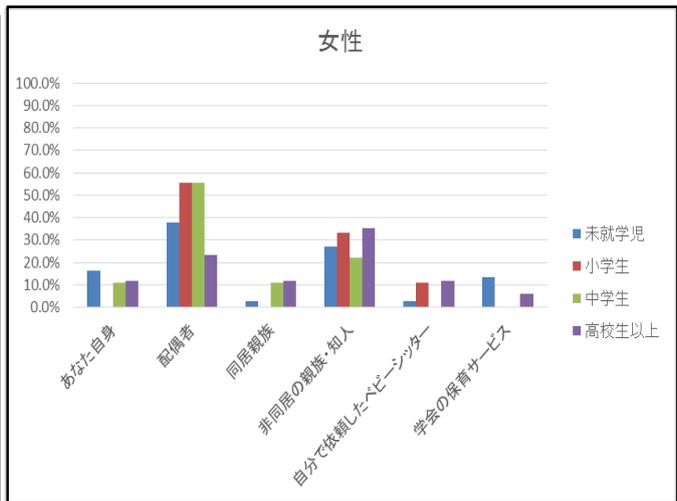
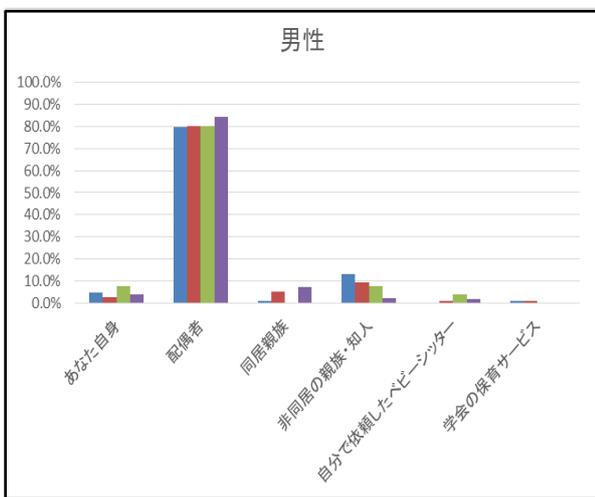
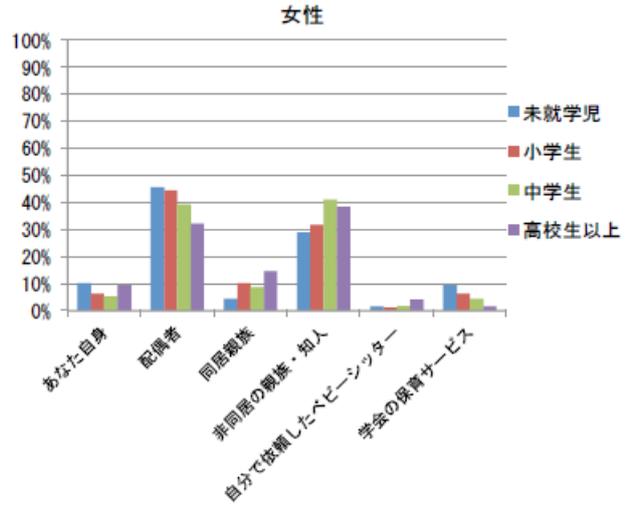
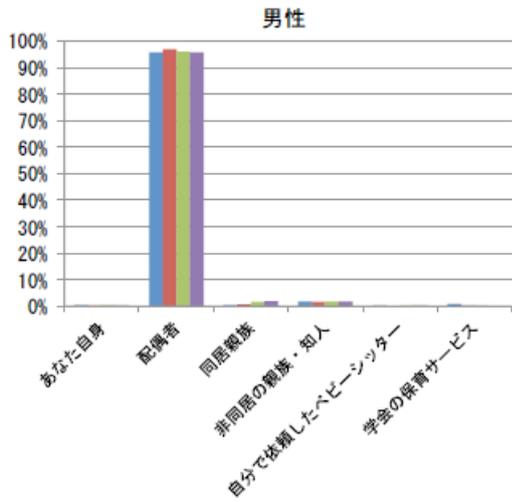


図 3.9 学会参加時の保育担当者—最年少の子どもの年代別(上:全体/下:水産学会)

別居経験(図 3.10-13)

水産学会では配偶者を持つ男性の 29.5%、女性の 55.6%に別居経験がある。また、別居期間と子どもの数の相関については、大規模アンケートで、女性は別居なしと比べ別居ありの方が子どもをもたない、あるいはもっても 1 人の割合が高く、さらに平均値では、別居なしに比べ特に 1-5 年の回答者において子どもの数が明らかに少ない、という傾向が出ているが、水産学会では男性女性ともに明確な相関は見られなかった。

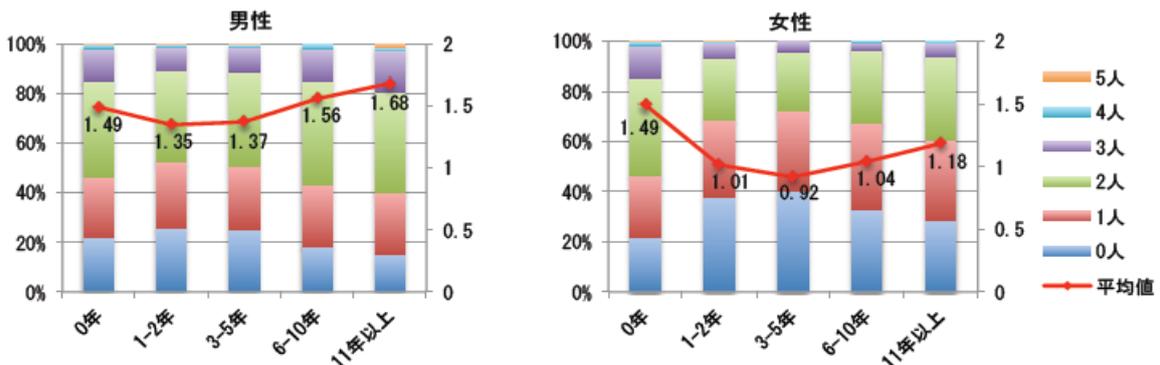


図 3.10 別居期間と子どもの数

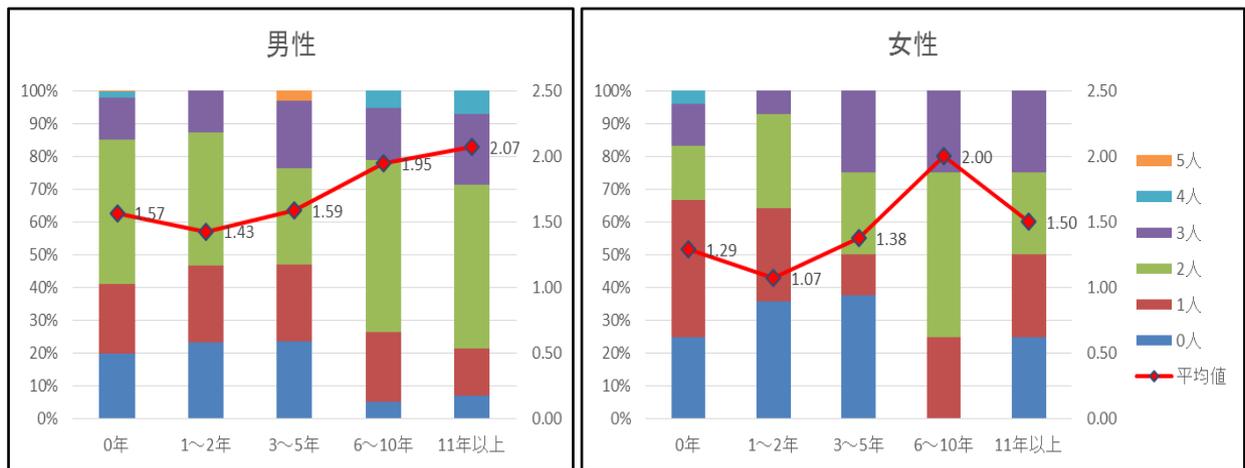


図 3.10 別居期間と子どもの数(水産学会)

所属機関別の別居年数の分布に関しては、男性は大規模アンケートと同じく、全般的に別居なしの割合が高く、所属機関による差異はほとんど見られない。女性は回答数がすくないため傾向が見られない。

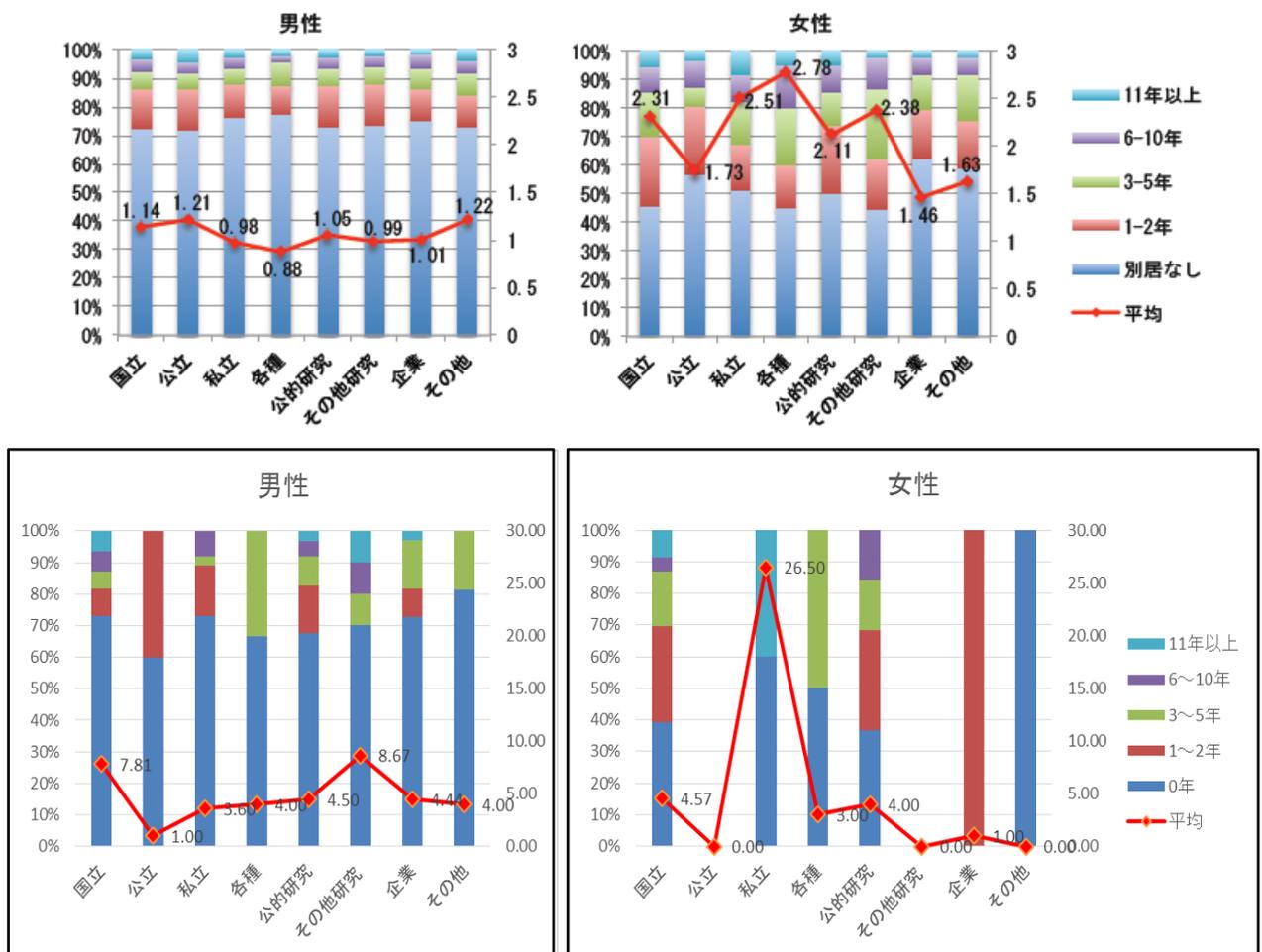


図 3.11 所属機関別の別居年数と平均(上:全体/下:水産学会)

別居について、それを解消すべく何らかの努力をしたかという設問においては、水産学会の男性の場合は 48%、女性の場合は 67%が努力をしたと答え、そのうちの、男性の 54%、女性の 50%が努力しても解消できなかったと回答した。所属機関別に見た結果では、回答数の多い国立大学と公的研究機関では大規模アンケートと同様な傾向が見えるが、その他の分類では回答数が少ないためこれ以上の分析は難しい。

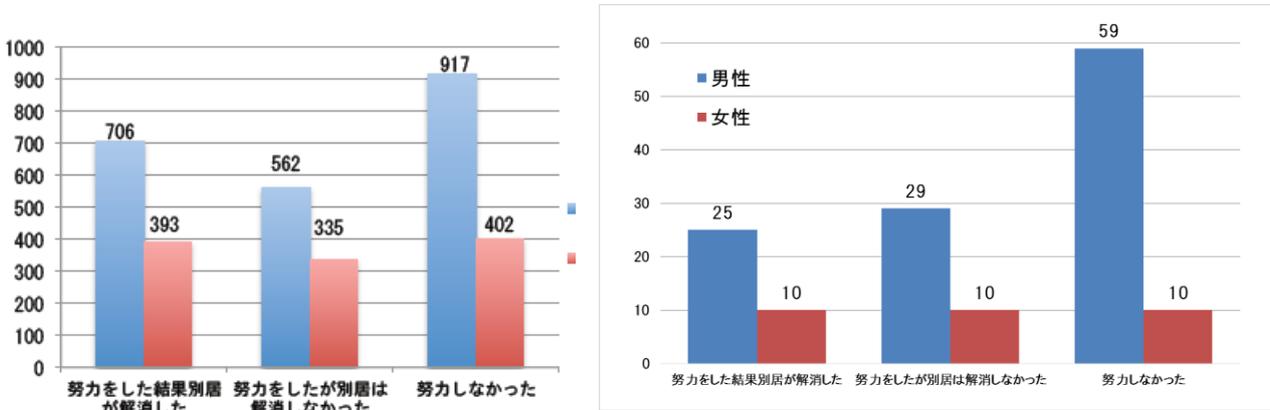


図 3.12 別居の解消に向けた努力(左:全体/右:水産学会)

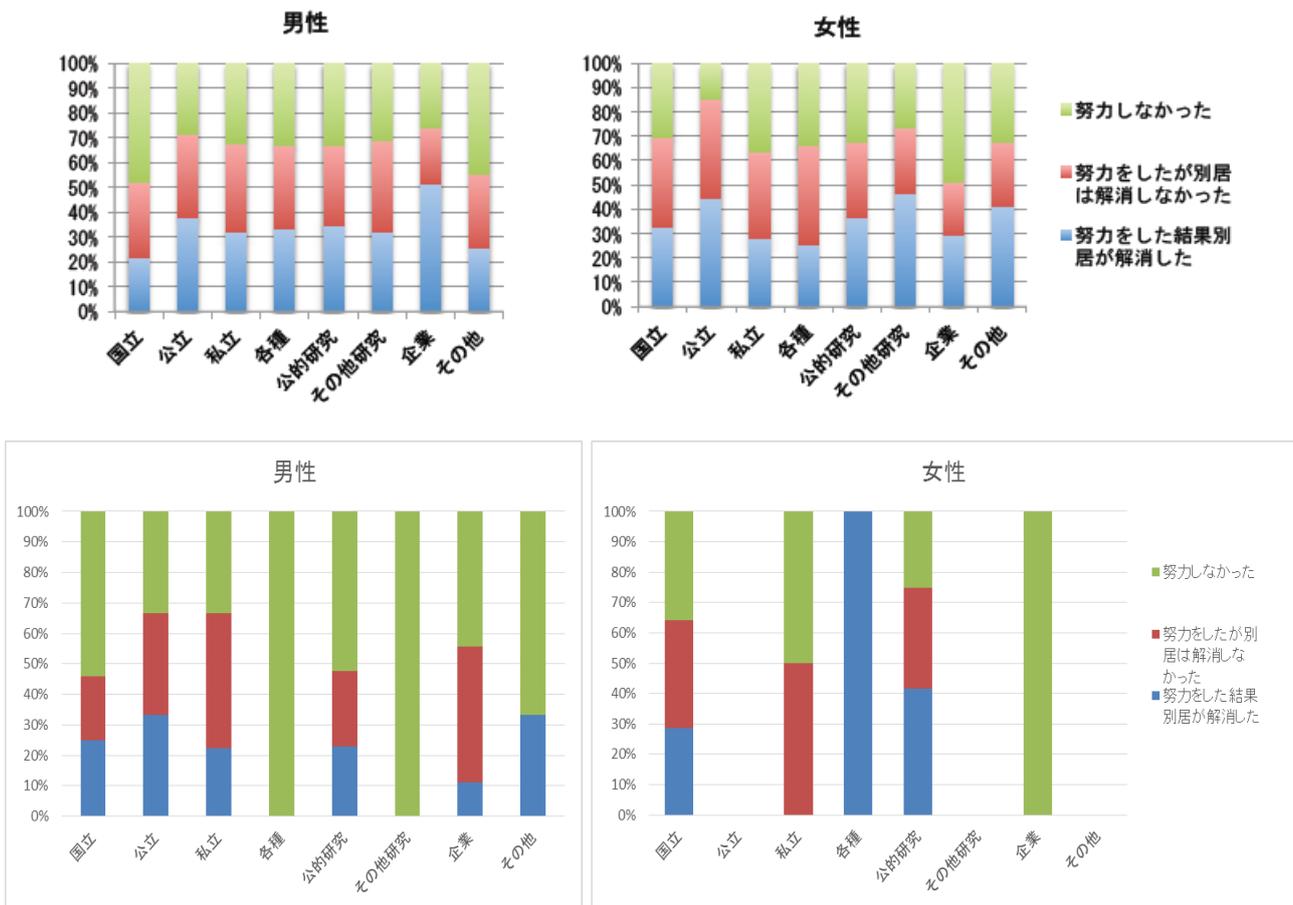


図 3.13 別居の解消に向けた努力(所属機関別)(左:全体/右:水産学会)